

# 魅力ある奥三河の大地を研究



医王寺

横山良哲さん(昭和二十一年生)は現在曹洞宗長嶽山医生住職を勤めてみえます。今まで県立高校の教諭、鳳来寺山自然科学博物館の館長として奥三河の地学の研究に携わってきました。また、多くの本を執筆されていますが大変読みやすく普段何気なく眺めている石も身近なものに感じることが出来ます。



取材 平成二十二年三月二日

県民安全防災課 河合・森

## 横山良哲さん

お寺の住職になる方が地質や鉱物にのめりこんでしまったきっかけはどのようなものでしょう。

横山 一つは小学校の頃にやじりを拾ったのと、五年生の時、お寺の小僧としてお盆に檀家を回ったんです。その中に東三河の地質と鉱物の会の会長をしていた柿原喜多朗先生がみえて、戸棚の中のいろいろな石をのぞきこんでいたら、「石を拾いにおいで。教えてあげよう。」と言われたことです。

もう一つは医王寺の境内を日本で一番長い断層の中央構造線の一つ「医王寺断層」が通っていて、ここにいるだけで日本中の学者が来るんです。ある程度幅があるんですが寺の駐車場を全然違う石が通っていて浦川まで達しています。お寺の境内にいただけで地質の変化を楽しめたので、子供心にずっと遊んでしまいました。

## その頃の思い出深い石はありますか。

横山 小学校六年生(昭和三十三年)の夏の採集会で、田口鉱山においてなげなく拾った石を、引き出しに入れて

てそのままにしていました。その後昭和四十四年にアポロ十一号が月から新鉱物を二つ発見してきてその一つがバイロクス鉄石と名づけられてこの石に近かったのです。そこで初めてこのバイロクスマンガ石が有名になりました。世界中で探された結果、田口鉱山のもので一番きれいだということになりました。今でも日本中のマニアが田口鉱山へ土日にはよく来ます。

## 専門家になるためにどのように力を付けましたか。

横山 新城東高校に勤めたとき、大学の地学の先輩の浦川洋一先生と、二人で奥三河を歩き回ったんです。かつての奥三河には大きな火山がありました。地下のマグマから溶岩が岩の割れ目にはいった大きな列がいくつもできていて、これが金鉱脈にも繋がるんです。この時にいろいろな岩脈を見つけたことで力がつきました。一番大きい岩脈は八kmあって、日本でもこれだけの安山岩と溶岩の岩脈がみられるところはないですね。

**中央構造線を実際に見ることの出来るポイントはどこがいいですか。**

横山 長篠露頭といって、中央構造線の北側を内帯、南側を外帯と言いますが、領家変成帯と三波川変成帯の地層が非常にはっきりとシャープに見えるんです。また、近くに来ると皆歓声を上げるのですが、長篠大橋の上流三百メートルにわたって圧砕されてきた岩が川原に出ています。いつもきれいに洗われていて歩くと非常に均一です。これだけ見事な露頭は他にないのではないかと思います。

一生懸命PRしているんですが、中央構造線を知らない人が多いですね。住んでいるとあまり意識しないし、何

気なく子供の頃に遊んだ滝が断層であるとかを、もう少しPRしたいですね。

**医王寺という長篠合戦時に勝頼の本陣が置かれたということと歴史的にも有名ですが。**

横山 地形的には長篠の合戦の前から寺の裏山が砦になっていて、いい場所だということと勝頼が来たんです。そのころ津具金山が開発されていて、

信玄の時代にピークを迎えます。信玄が亡くなって衰退に向かう。織田信長は逆に生野の銀山を開発し、これが長篠の戦いの六年前です。武田としては津具金山を押さえておきたい。そうし

ないと近くの織田に押えられてしまう。

織田信長は軍資金がたくさんあって自信満々だった。帰れば良かったところを勝頼は深い川を越えて背水の陣を敷き、戦って徹底的に敗れてしまいました。本陣を置いた時に家臣の制止を聞かなかつたようです。これで武田氏は急速に衰えていって天目山で滅亡します。その権力の空白に勢力を伸ばすのは徳川家康ですね。武田の金を掘る技術者を丸抱えしてしまいました。

**設楽原にも中央構造線が横切っていますね。**

横山 中央構造線と長篠設楽原の戦いとは本当に深い関係があるんです。J

R飯田線から豊川まで木が生い茂っ

ていてよく見えないですが、竹藪の下には狭くて深い谷があつて、馬が越せないんです。これは中央構造線の断層が通り周辺のもろくなつていた地層が侵食されたためです。豊川から飯田線までの間には越すところはないから、あとは飯田線を境にしたあたりから馬防柵を造ればいい。知らず知らず中央構造線の地形をうまく利用しています。

横山さんのお話を聞き、奥三河は鳳来寺山を中心とする地質の宝庫であり、改めてその魅力に強く引かれました。そして、少しでも多くの方に地学の楽しさを知ってもらいたい、実際に来て見ていただきたい、という熱い思いを感じました。

私たちには見慣れた風景でも、地下に広がる世界に目を向けることで、今まで気づかなかつた豊かな価値を感じることが出来ました。



写真上 中央構造線長篠露頭

写真中 長篠大橋下の圧砕岩の川床

写真下 断層で生じたくいちがひ礫  
(新城市大島地区産)